

弁護士

もうすぐ霜がとける

P.N モリヤ  
(森田沙彩)

人 物

暁知律（45） 弁護士

暁朔（25） 暁の息子

風間瞬平（25） 会社員

暁瑠理（45） 暁の妻

要若葉（30） 要の秘書

リーダー

客

○ワゴン車・外（夜）

全身黒服の若者が降りて来る。その中に戸惑いながら降りて来る、暁朔（25）と風間瞬平（25）。

2人にバッドを差し出す、リーダー。リーダー「何でもいい。金目になりそな物、取って来い」

朔「え、何言っているんですか」

風間「俺たち、配達の仕事に応募したんすよ」

リーダー、朔の顔の横にバッドを構え、リーダー「親の首も飛んでいいのか？」

固まる朔に風間、手袋をした手でバッドを奪う。若者の後を追う、風間と朔。

○誰かの家・和室（夜）

散らかった部屋。

若者と朔と風間、物色している。

倒れている住人、ふらつきながら風間めがけ包丁を振り上げる。風間、咄嗟にバッドで殴る。血痕が手元に飛ぶ。

パトカーの音。慌てて逃げる若者。

硬直する風間。朔、素手でバッドを奪い、

朔「行け！」

風間「で、でも」

朔「おばさん、1人に出来ないだろ」

風間、顔をしかめ、立ち去る。

○喫茶店・店内（朝）

ベルを鳴らす店員。『福袋』のポツプ。長蛇の列。

その中に弁護士バッチをつけたスーツ

姿の暁知律（45）。

暁の前の客が10個、福袋を手にする。

白い目で見る、客と店員。

暁「100人家族ですか？テーバッグ、1つ10個入り」

客、ポカンとする。

客「べ、別にいくつ買おうが貢献しているならいいでしょ」

暁 「ええ。ただ、私は転売するのかなと」

客 「い、言いがかりは止めてよ」

暁 「転売するなら古物営業法に引つかかる可能性があります。可能な13分類のうち食品は含まれていないので、違法」

客、恐る恐る福袋を見る。

暁 「売るなら他の物が良い。家電なら利益もあつて、法に触れない」

客、バツが悪い顔で出ていく。

#### ○暁法律事務所・外観

#### ○同・オフィス

紅茶を飲んでいる暁、ほっと一息。

要若葉（30）、福袋の中を覗き、

若葉 「似たようなものばかりですね」

暁 「利益の方が大きい。私には問題なし」

若葉 「利益利益って、息子さんの就職祝いもケチるのは違うんじゃないんですか？」

FAXが届く。

若葉、内容を確認し、口に手を当てる。  
暁、首を傾げる。

○警察署・留置場・一室

俯き座っている朔。窓越しの部屋に暁  
が入室。

朔を見て、頭を掻きながら座る。

暁、書類を机に投げ、呆れた顔で

暁「容疑は強盗傷罪。当番弁護士の依頼で来  
た。1回のみで15分しか時間がない。依  
頼者は暁瑠理、君の母親で、私の妻だ」

朔、縮こまる。

暁「私は真実を知ることができない。バッド  
で殴って相手を意識不明にした。それだけ  
だ。間違いないか」

朔「…」

暁、ため息をつき、

暁「本人が話している以上、そしてそれに矛  
盾する証拠がない以上、検察の見立てが間  
違いないとは言えないと伝えるのが仕事だ」

朔「父さんは、俺がやったって思う？」

暁「…弁護に私情は挟まない。厄介な欲望は法に必要ない」

朔、苦笑いし、

朔「そうだ。事実を知らない。俺のこと何も知らない」

暁、腕時計を見る。

朔「時間の無駄だよ。どっちに転んでも良い」

暁「勾留から起訴された場合、日本では99.9パーセント有罪になる。それでもいいのか」

朔、投げやりな笑顔。

暁、書類を乱暴にとり、出ていく。

### ○風間の家・居間

介護用のベッドで横になっている風間の母。風間、母を起こす。

風間「汗かいているな。着替えるか」

テレビから闇バイトのニュース。画面に警察に連行される朔の姿。

風間、目を見開き、動揺。

○ 暁の家・リビング（夜）

暁の胸を何度も叩く、暁瑠理（45）。

瑠理、泣きながら、

瑠理「そのまま帰って来たの！？あなたは今まで何を見てたの！？」

暁「朔がそういうんだ。仕方がない」

瑠理「だからって、そのまま信じるの？」

暁「ならどうすればいい。バッドには朔の指紋がある。否定もしない。私は、弁護士は！」

瑠理「弁護士じゃなくて、父親として信じてあげれないの？」

暁「…分からない。時間の無駄だったから」

瑠理「あの子、新卒で就職できたのに収入が少ない、税金でほとんど取られるって嘆いていたわよ。ちゃんと話聞いた？」

暁、首を横に振る。

瑠理、ため息をつき、ソファに座る。

○ 同・朔の部屋（夜）

暁、恐る恐る入る。

整理整頓された部屋。

暁、壁に立てかけられたバッドを手に取る。薄汚れており、もち手には握った痕。そばにある写真たてを手に取る。

写真には朔と風間が草野球姿でピース。

暁「野球、していたのか」

暁、写真をジッと見る。風間のグローブが左手についている。

暁、ハッとする。

○法律事務所・オフィス（夜）

慌てて入って来る、暁。

作業をしていた若葉、驚く。

若葉「ど、どうされました？」

暁「朔の、野球バッドの証拠写真」

若葉、慌てて写真を渡す。

写真にはバッドについた血痕が手元の方  
方向に飛び散っている。

暁「朔は右利きだ。右利きの人がバッドを横  
に振ったら先端の方に血痕が飛ぶはずだ。

これは、左利きの人が使った」

若葉「え、なら、犯人じゃない」

暁「瑠理に、私選弁護士を紹介して」

若葉「はい。どなたにされますか？」

暁「俺を。その方が動きやすい」

若葉、目を見開くが、微笑み頷く。

### ○繁華街の外れた住宅街

上を見ながら何かを探している暁。

住宅の玄関上に防犯カメラ。

暁、チャイムを押す。

暁「私、弁護士をしています暁と申しますが、

防犯カメラの映像、見せていただいても？」

### ○法律事務所・オフィス

PCで動画を見ている、暁と若葉。

映像にはワゴン車から降りる朔と風間の姿。

暁「やっぱり彼か」

若葉「風間瞬平、ですか？」

暁「彼、左利き。他の若者もバッド持つてるけど、全員右利きだ」

若葉「どうします？」

暁「彼は朔の幼馴染だ。理由は知らないが、何故か朔が彼の罪を、自ら背負おうとしている」

若葉「聞くしかないのでは？息子さんに」

暁のスマホが鳴る。

画面には『瑠理』。

○暁の家・リビング（夜）

土下座をしている、風間。

向かいに怒りに震える瑠理と冷静な暁。

風間「本当にすみませんでした！」

瑠理「あなたのせいで、朔は。て、テレビに

顔がさらされたのよ！」

暁「なんで今ごろ、しかも私の所に」

風間「：あの時、俺、手袋つけてたから。証

拠、ないですよね」

暁「よくそこまで気づいていたね。いや、計

算済みだった？朔をハメるために」

と、握り拳を作る。

瑠理、ハツとし、暁を見る。

風間、首を大きく左右に振る。

風間「朔が、俺を逃がしたんです！俺、母の  
介護しながら働いてて。俺がいなくなった  
ら母さん、生きて行けない」

と、握り拳をつくる。

風間「親父さんは弁護士だって聞いてたから。

証拠、ないけど、信じてくれますか？」

と、申し訳なさそうに顔を上げる。

暁「証拠は確かにない。法律は証拠と供述で  
戦う。どんなに残酷でも私情は挟まない」

風間、俯く。

暁「だが、君の発言が事実なら、私は君と、  
朔を信じる」

瑠理、涙を浮かべる。

風間、泣くながらもう一度頭を下げる。

暁、風間を見つめたまま。

